



豪風関 県民栄誉章受章祝賀の集いが、10月2日に市民ふれあいプラザや内陸線鷹巣駅前などを会場に行われ、地元出身力士の受章を大勢の市民とともに祝いました。

豪風関は、今年の大相撲3月場所で本県出身力士では最多となる幕内通算507勝を達成し、現在も幕内最年長力士として、幕内の高いレベルで取組を続けながら最多勝記録を更新中です。帰省時には福祉施設や学校への訪問も積極的に行い、身近な郷土力士として広く県民に愛され、県民に勇気と希望を与えていることが功績として認められ、8月16日の夏巡業大相撲秋田場所、佐竹知事から県民栄誉章が授与されました。

受章おめでとう!

豪風関 県民栄誉章受章祝賀の集い



昼食会のあと、市民ふれあいプラザから内陸線鷹巣駅まで、祝賀パレードが行われました。通りにはたくさんの方が詰めかけ、秋田犬を連れた豪風関に「おめでとう」や「がんばれ」など、多くの祝福の声や応援する声が掛けられました。

また、鷹巣駅に到着後、特産品のバター餅が振る舞われたほか、集まった人たちに対し、豪風関は「22歳で相撲界に入ったとき、37歳の今の豪風関は想像していなかったし、皆さんも想像していなかったと思う。さらに北秋田市出身の力士が県民栄誉章を受章するとは誰もが想像していなかったこと。しかし、想像できないことを成し遂げるのがプロのスポーツ選手」と自分を鼓舞するかのよう力強い言葉を述べると観衆からは拍手がわき起こり、最後に「4年後、東京オリンピックが行われる時は41歳。自分も想像できない41歳の豪風関に向かい日々精進していきまますので、今後も熱い声援をお願いします」と述べると、この日一番の拍手と声援が豪風関に送られました。

このあと、内陸線の貸切り列車に乗り込み角館へと出発。各停車駅では「おめでとう」の横幕を持った市民が祝福に駆け付け、その声援に応え、豪風関も満面の笑顔で手を振り返していました。

この日の祝賀の集いは、この栄誉を地元北秋田市でも祝おうと豪風関県民栄誉章受章祝賀の集い実行委員会（実行委員長・津谷永光北秋田市長、佐藤暢男豪風後援会会長）が主催したもので、昼食会やパレード、祝賀列車の運行などを行い豪風関を祝福しました。

市民ふれあいプラザで行われた昼食会では、鷹巣小学校相撲部の児童を先導に、豪風関が約200人の参加者から大きな拍手で迎えられて入場。このあと主催者である津谷市長、佐藤会長があいさつを述べたほか、来賓の金田勝年法務大臣が祝福の言葉を述べ、地元力士の多大な功績を称えました。